

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	ごみ減量推進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	水道環境部	課等名	環境課		包含する細々目	1	4	2	1	10	4		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり												
施策	56 廃棄物の減量と適正処理												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等		廃棄物の処理及び清掃に関する条例					
		事業期間	年度～	年度									

**【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。**

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	市民、事業者	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了した年度とする	
			107844	107000			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	ごみ減量の必要性を認識して、焼却・埋立処分するごみの減量(リデュース、リユース、リサイクル)を実践してもらおう。	ごみ収集量	18目標	25500	最終目標	25100	
			18実績	25198	19目標	25420	↑
			23目標	25100	23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
18実績				19目標		↑	
23目標				23実績		最終目標達成年度	

**(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。**

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・循環型社会形成の中で、「ごみの減量」は大きな課題となっている。消費者である市民団体と、販売者である事業者が、ごみ減量という共通の目的を持ち、お互いが協力して可能なごみ減量の方法を計画し、取り組む。実践した結果を検証し、取組を広報して啓発に努め、ごみ減量に取り組む団体、市民、事業者の裾野を広げて行き、結果的に排出量の削減に結びつける。	18年度の実績 環境衛生組合連合会と連携した事業展開。 ・市内6店舗の店頭において、買い物袋持参運動(マイバック運動)の啓発活動。	市民アンケートでごみを減らす工夫をしていると答えた市民の割合。(%)	75
19年度計画	環境部会連絡会と連携した事業展開。 ・買い物袋持参運動の啓発活動。 環境部会連絡会及び市民団体、販売店と連携した啓発。	市民アンケートでごみを減らす工夫をしていると答えた市民の割合。(%)	77	

<b>&lt;金額の単位:千円&gt;</b>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		0
一般財源		0	
事業費計(A)	0	0	
人件費	正規職員所要時間	18年度 30	19年度 30
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	107	107
	トータルコストA+B	107	107

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

**(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。**

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	ごみ減量分別に関する啓発活動 ごみ減量のための3Rの推進 ごみ問題への意識が高揚し、分別が徹底され、ごみの排出量が削減される。	市民アンケートでごみを減らす工夫をしていると答えた市民の割合	現状値	75	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

<p><b>この事業を開始したきっかけ</b></p> <p>・循環型社会形成の中で、「ごみの減量」は大きな課題となっている。ごみ処理費用負担制度導入時に、「ごみ有料化の財源」の有効利用の一つとして、「ごみの減量」に取り組むソフト事業として開始した。</p>	<p><b>事業を取り巻く状況の変化</b></p> <p>・広域連合全体でごみの減量に取り組む申し合わせをしている。イタチガ沢最終処分場も逼迫しており、ごみ減量の取り組みが必要。</p> <p>・平成16年4月から、ごみ処理手数料が改正されて、ごみ減量とリサイクルの推進意識の向上が期待される。</p> <p>・容器包装リサイクル法改正が、平成18年通常国会に提出された。</p>	<p><b>事業に対する市民や議会の意見</b></p> <p>・全国的にマイバック運動が広がっており、飯田市でも取り組んだらどうかとの声がある。</p>
---	---	---

**【See】18年度の振り返り**

目的 妥当性 評価	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 結びつく (その理由)</p> <p>ごみの減量は地球温暖化の防止策の一つであり、減量による処理経費の削減ができれば必要。</p>	有効性 評価	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 余地がある (その理由)</p> <p>市民の意識の向上が、ごみ減量に結びつく。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がある (その理由)</p> <p>ごみ減量は、市民1人1人の取り組みが重要であると共に、事業所に対する啓発も必要となってくる。</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 影響あり (その理由)</p> <p>ごみの増加は、地球温暖化にも繋がると共に、ごみ処理経費の増大となる。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)</p> <p>ごみを減量することは、今後も続く問題である。</p>		<p>他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 統合可能 (類似事業名、理由)</p> <p>現在設立を勧めているe-地域協議会の主旨とも一致する部分があり連携が必要。また、参加団体も一致する。</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 必要ある (その理由)</p> <p>ごみ減量は、市民1人1人の取り組みが必要である。</p>		<p>効率性評価</p> <p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 可能 (その理由)</p> <p>市民運動として定着してくれば、人件費等削減が可能。</p>
			公平性 評価	<p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) <input type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由)</p> <p>ごみ減量により、地球環境が守られると共に、処理経費が削減されることは、市民全体が受益者となる。</p>

**【Plan】改革改善**

<p><b>今後の事業の方向性</b></p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 <input type="text"/></p> <p>具 体 化</p>	<p><b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b></p> <p>環境部会連絡会での活動推進。(市民とのパートナーシップにより事業展開を図る。)</p> <hr/> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>環境部会連絡会との連携。</p>
--	--

**【補足事項環境側面】**

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

**【指摘事項】**

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	